



エキノドルスほかの育成水槽。大型化するものはあえて小型で維持している。エルディアプロなど8種がレイアウトでの出番を待つ



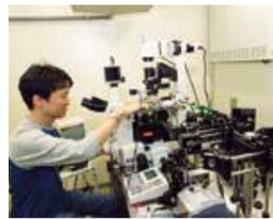
キューバルドのホワイト。クセのある水草だそうだが、軟水で育成したところうまく育っている



水草水槽には様々な魚が泳ぐ。このアベニーパファーは、アベさんという名前（お子さんの命名）



多肉などの観葉植物も好きで集めている。写真はハオルチアの仲間。これもお子さんからプレゼントされたものだ



西坂さんの研究室は現在7部屋あって、当日はオフィスと顕微鏡室をご案内いただいた。写真は西坂さんの開発した光学顕微鏡（愛称サザエ）。西坂さんは光学顕微鏡に関する特許を5つ持っているのだ



お子さんからプレゼントされたオレンジフィンカイザー（水草レイアウトとは別の水槽で飼育中）。いつもは土管の中に入っているが、餌を落としたら出てきてくれた



いいね！ 水槽のある生活!!

重力から自由になっている。だから水草はいいんです

AQUARIST List No.02

東京都/西坂崇之さん

Photos / T.Ishiwata

Text / S.Yamaguchi

西坂さんと奥さまの頼子さん、中学生の娘さん、小学生の息子さん。皆がアクアリウムが大好きなご家族だ

西坂さんは、分子モーターとい
たんばく質分子の研究と、それを見
る光学顕微鏡の開発などで著名な生
物物理学の研究者だ。その研究室に
は趣味の水槽が置かれているとい
オープンキャンパスでにぎわう学習
院大学、理学部研究棟をたずねた。

ご家族で楽しむアクアリウム

いつもとは異なるシチュエーショ
ンの愛好家訪問。気を引き締めつつ
訪れた研究室ではじめの挨拶を終え
ると、奥様と2人のお子さんも顔を
出してくれた。
「ここには家族がよく来てくれるん
です」

そう言って笑う西坂さん。ご家族
で小誌を読んでいただいているそう
で、場の空気が打ち解けた。小誌連
載では、娘さんが「アクアリウムあ
るある」、息子さんが「アクアな猫の
躰け方」を気に入っているとのこと。
また、2人のお子さんとともに西坂さ
んのアクアリウムを自由研究の題材
に選んだこともあるそう。今でも
息子さんとは一緒にショップに行く
こともあり、誕生日にはいつも魚を
プレゼントされるという。ご家族で
アクアリウムを楽しんでいるのが伝
わってくる。

研究者ならではの？ のテクニク

西坂さんが楽しんでいるのは主に水
草だが、現在主流のネイチャー系レイ

アウトとはまたちよつと違う。好きな
水草を集めて栽培する、昔ながらとい
うか、マニアらしいスタイルだ。特に
珍種ばかりを集めているわけではない
が、白いキューバルドウィジアなど、
最近登場したばかりの水草の姿もあ
る。水草では幅75cmの水槽がメインで、
水上に飛び出したエキノドルスとアヌ
ビアスが印象的だ。

「アヌビアスのハステイフオリアは
数枚の葉を展開していた小さな株を
ここまで大きくしました」
とその生長に目を細める。

水草の育成についてうかがうと、さ
すが研究者というテクニクをいく
つかお聞きできた。pH調整にはアク
アリウム用品ではなく化学で使う試
薬を用いており、また、各種微量元
素の補給には市販の人工海水を希釈
して使用しているという。それらに
ついて一部は、化学式を使ってい
ねいに解説していただいたが、生粋
の文系である筆者には正直「???」
などところどころ……。モル計算、という
言葉聞いたのは、いつ以来だろう
か。ともあれ、研究者ならではのアク
アリウムと感じた次第。

「研究とアクアリウムに関係はありま
せんが、アクアリウムがあることは
間違いなく仕事にはプラスになっ
ている、そう思います」

研究に没頭しているとき、ふと水
槽を見て気分が和らぐこともある。
また、水換えは気分転換にちょうど
いいという。仕事と趣味、そのよ
い関係があることを、こちらの研究
室で知った気がした。



水上葉が飛び出した75cm水槽

「センスがないので」と言われていたが、それぞれの水草からきちんと個性が伝
わってくる合理的な配置という印象もあるレイアウト。育成条件の異なる水草
のために、いくつかの照明を使って、光の強さや波長の異なる場所を作っている。
ここで40種類もの水草を育てているそうだ